

国語

I

出典 「漢文の素養」(加藤徹) 光文社

日本人が漢字や漢文をどのように受容し、それを独自に発展させていったのかを古代から平成にいたるまで解説した、日本文化についての本です。出題箇所の論旨と主張はともに明快ですから、内容自体を理解するのはさほど難しくはないでしょう。

問1 【漢字の書き取り問題】(解答番号は ①～⑥)

a 異称 b 文物 c 風雅 d 輩出 e 劇的 f 処世 が正答です。同音異義の漢字もあり、文脈のなかで判断することが重要です。

問2 【文脈把握による空欄補充】(解答番号は ⑦)

空欄 Ⅰ には直後の段落内容から「新漢語」が、空欄 Ⅱ には「和語も」「中国語に吸収された」という文脈から「外来語」が入ります。これだけでも正答④を導き出すことも可能ですが、例えば、「借用語」が入る空欄 Ⅳ の直前が「日本漢語からの」となっていることもヒントです。正答率は47%でした。

問3 【文脈把握による空欄補充】(解答番号は ⑧)

正答は①です。正答率は90%でした。

問4 【文脈把握による空欄補充】(解答番号は ⑨)

正答は⑥です。「昭和の日本においては、漢文は、すでに『消費財としての教養』になっていた」という前段落の内容がヒントになります。正答率は62%でした。

問5 【文脈把握による空欄補充】(解答番号は ⑩)

正答は①です。直前の「趣味ではなく」がヒントです。正答率は52%です。

問6 【文脈把握による空欄補充】(解答番号は ⑪)

正答は④です。次段落の一文目と二文目から設問で「生産財としての教養」や「ノウハウ的なものも除外されます。しかも、ここでは「マンガやアニメ」のサブカルチャーは問題となっていません。正答率は9%と芳しくありませんでした。

問7 【文脈把握による該当内容】(解答番号は ⑫)

正答は④と⑦です。正答率は54%でした。

問8 【文脈把握による内容理解】(解答番号は ⑬)

正答は⑤です。正答率は60%でした。

問9 【文脈把握と理由説明】(解答番号は ⑭)

「江戸から明治にかけて」をキーワードに内容を正しく理解すれば、⑥以外は選択肢から除外されます。正答率は76%でした。

問10 【文脈把握による内容理解】(解答番号は ⑮)

正答は③です。「消費財」と「生産財」の意味を正しく理解していれば、「趣味」という言葉が入っている正答を得ることは容易でしょう。正答率は72%でした。

問11【内容理解による小見出し選択】（解答番号は16）

本文の「日本漢語」の説明と、それを踏まえて中国との関係を論じている節であるため、③が正答です。正答率は45%でした。

問12【内容理解による小見出し選択】（解答番号は17）

正答は①です。本書のタイトルや一段落目・二段落目の冒頭の「昭和」・「平成」という文言から、あくまで漢文的な素養の低下がテーマとなっていることが読み解けるでしょう。正答率は16%でした。

問13【内容合致】（解答番号は18）

正答は⑤と⑥です。⑥は過半数の受験者が正答していました。完答ということもあり、正答率は15%にとどまりました。

II

出典 角山 栄『時計の社会史』（角山栄）中公新書

機械時計の出現が新しい時間概念の創出に果たした役割を取り上げ、時間が貨幣と同じように貴重な価値をもつものとして意識されるようになったことを、労働意識の変化を事例に論じています。機械時計が公共用時計から室内時計あるいはウォッチの出現へと変化したことを踏まえ、時間が共同体から個人のものになっていく流れを正確に読み取ることも大切です。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は19～25）

a 白夜 b 新興 c 牛耳 d 鐘楼 e 容赦 f 治下 g 法文

全問正答者はいませんでした。比較的易しい漢字による二字熟語が中心です。「新興」「治下」「法文」などの同音異義をもつ漢字は、文脈を正しく捉えることが重要です。

問2【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は26）

定時法と不定時法の違いを前段落から正しく把握していれば、空欄Ⅱは容易でしょう。その直前に「すなわち」があるので、空欄Ⅰは論理的に、また、空欄Ⅲも同様に充填できるはずですが、空欄Ⅳは、段落の文頭に「しかし」があることから、文脈の転換を意識することが必要です。空欄Ⅴは空欄Ⅳと対立する語であることが論理的に導かれるはずですが。正答は②です。正答率は72.4%でした。

問3【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は27・28）

第二段落の「昼間の一時間と夜の一時間は、春分と秋分の日を除くと、季節と緯度によって異なる」との記述は、春分と秋分を境に昼夜の時間の長さが変化することに関連する記述で、中緯度地方の人々は誰でも季節変化の中で経験しています。これを踏まえれば、空欄Ⅹと空欄Ⅺは経験に基づいて補填できるはずですが。正答は空欄Ⅹが②で、空欄Ⅺは⑤です。正答率は18.4%でした。

問4【空欄補充 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 29）

時間を組織的・計画的に利用し、定時法システムという合理的立場を重視することから、空欄 **ア** に入る言葉が神との距離感を示すものであることは容易に理解できるでしょう。正答は⑥です。正答率は57.9%でした。

問5【傍線部の理由 内容理解に関する問題】（解答番号は 30）

不定時法から定時法への転換は時間革命そのものですが、その意義は第五段落に集約されています。定時法システムの成立がもたらしたものが解答になります。正答は⑥です。正答率は43.4%でした。

問6【傍線部の理由 文脈把握に関する問題】（解答番号は 31）

時間に対する商人高利貸資本の立場が教会の立場と異なっていたことは、要するに利潤をめぐる対立に帰結するとの文脈を把握できるかどうかポイントになります。正答は④です。正答率は31.6%でした。

問7【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 32）

ローマ教会が受け入れ、ギリシア正教会が受け入れなかったものを伝統という言葉で置き換えていることに気づけば、解答は容易でしょう。正答は⑤です。正答率は97.4%でした。

問8【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 33）

近代とは、人びとの労働に根本的な変化が起こった時代であるとの文脈を理解すれば、正答を得ることができるでしょう。正答は②です。正答率は69.7%でした。

問9【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 34）

現実生活のなかでの重みとは何かを文脈から正確に把握することがポイントになります。正答は⑤です。正答率は85.5%でした。

問10【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は 35）

新しい時間秩序は商人に時間と利潤との強い結びつきを意識させるようになったという社会的な枠組みの変化が話題の中心です。正答は④です。正答率は38.2%でした。

問11【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は 36）

人びとの労働に起こった根本的な変化とは、労働が時間に規定されるようになったという状況の成立である、との話題の本質を理解することが大切です。正答は①です。正答率は32.9%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は 37・38）

正答は⑥と⑧です。①は「古代の日常生活では、むしろはるかに便利で実用に適していた」が誤りです。不便で日常には適さなかったわけです。②は「時間を売って利子をとる行為は…（中略）…神を冒瀆するものであるとして教会の態度を非難した」が誤りです。この非難は、商人高利貸資本側に向けられた教会側からのものです。③は「時刻制度という新思想を受け入れることさえ許さなかった」が誤りです。受け入れなかった新思想は、「商人の時間」と時計の技術革新です。④は「太陽と自然の一定のリズムに従って設定された定時法」が誤りです。これは不定時法の説明です。⑤は「教会の壁に取り付けられた大時計」が誤りです。大時計は教会の鐘楼に向かい合って取り付けられていました。⑦は「順次、等間隔時で二十四回」が誤りです。鐘を鳴らしたのは午前午後それぞれ十二回です。⑨は「一時間さぼれば日給六～七ペンスから一ペンスを差し引く」が誤りです。このことは「徒弟法」第九条には明記されていません。1問正答率は34.2%で、完全正答率は3.9%でした。